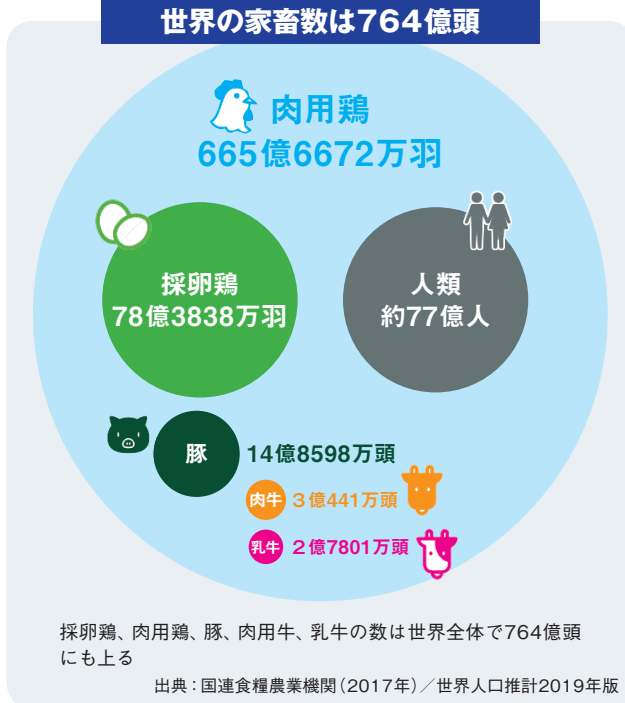


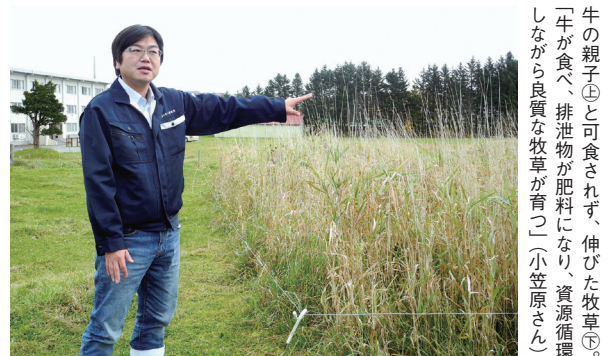
# アニマルウェルフェア 動物福祉の リスクと機会

世界の家畜数は764億頭



動物を人道的に扱う「アニマルウェルフェア(動物福祉)」が、ESG指標の一つになりつつある。畜産業に関する投資家のイニシアティブFAIRRの運用資産残高は、2200兆円(2019年11月時点)に上り、アニマルウェルフェアや気候変動の観点から複数の日本企業をハイリスクと評価した。企業はこの「リスク」を「機会」にできるのか。

(吉田 広子||オルタナ副編集長、堀 理雄||同編集部、富久岡 ナヲ、瀬戸内 千代、寺町 幸枝、クローディア|真理、岩澤 里美)



牛の親子①と可食されず、伸びた牧草②。「牛が食べ、排泄物が肥料になり、資源循環しながら良質な牧草が育つ」(小笠原さん)

一面に広がる緑の牧草。その上に寝転んだり、草を食べたり、駆けまわったり……。北里大学八雲牧場(北海道八雲町)の牛たちは思い思いに過ごしている。人間が近づいても逃げたり、威嚇したりすることも少ない。

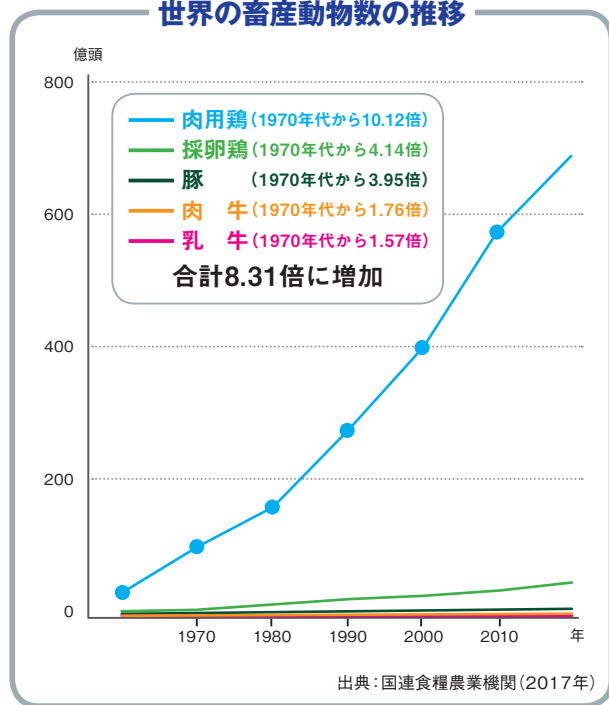
「牧草地で分娩し、6カ月間は自然哺乳で育つので、ほとんど人の手をかけていない。人間との距離があり、自然に育っているのが牛も気に留めないでしょう」

北里大学獣医学部付属フィールドサイエンスセンター八雲牧場の小笠原英毅さん(農学博士)は、笑顔で牛を眺める。

八雲牧場は、国内の飼料自給率が3割に満たないなか、農業や化学肥料を使用せずに生産した自給飼料100%を実現した。2009年には有機畜産物JAS認証を取得し、国内で唯一有機牛肉を生産する。

370畝の広大な土地では

### 世界の畜産動物数の推移



約280頭の肉用牛が飼養され、毎年5〜10月ころまでは放牧、冬は清潔な牛舎で暮らす。夏は牧草、冬は刈り取った牧草を発酵させた飼料などを食べている。

「人間ではなく、牛にとってどのような環境が本当に良いのか、科学的に研究を重ねている。牛舎でも窓やスペースを確保し、おいしい牧草があれば牛も幸せかもしれない。当然肉質への影響もあるが、出荷までの短い期間、できる

だけ「牛らしく」幸せに生きてほしい」(小笠原さん)

「良い肉＝霜降り」とされる日本では、一般的に穀物中心の高エネルギーの飼料が肉用牛に与えられる。つなぎ飼いは、運動することもなく、一生を牛舎内で過ごす肉用牛がほとんどだ。

一方で、北里八雲牛は脂質が少ない「赤身肉」が特徴だ。10年ほど前は「売り先がなく、北里八雲牛を背負って歩いてまわった」(小笠原さん)とい

うが、最近では、赤身肉の需要増とともに順調に売り上げを伸ばしている。

小笠原さんは「これからますます持続可能な農業が求められる、健康的な飼育環境で育った畜産物の価値は高まるはず。八雲牧場から『畜産の未来』を示していきたい」と、自信をにじませた。

### 動物に「5つの自由」を

アニマルウェルフェアは、一般的に「動物福祉」と訳され、「人が動物を利用する上で、動物の幸せ・人道的扱いを『科学的』に実現するもので、動物本来の生態・欲求・行動を尊重する」という考え方だ。次の「5つの自由」は1965年に英国で提唱され、世界で採用されている(20頁参照)。

#### ◆動物の適正な扱いの基本原則「5つの自由」

- ① 飢餓と渇きからの自由
- ② 苦痛、傷害又は疾病からの自由

- ③ 恐怖及び苦悩からの自由
- ④ 不快さからの自由
- ⑤ 正常な行動ができる自由

アニマルウェルフェアは、化粧品などの動物実験、ウールのミュールシング(24頁参照)など、動物に関係する産業すべてにかかわる。

なかでも、右図が示すように、世界の畜産動物は急増しており、畜産業や小売を含め食にかかわる企業が果たす責任は大きい。世界では764億頭もの家畜(鶏、豚、牛)が飼育され、そのうち日本には約10億頭いる(2017年)。

投資家のイニシアティブFAIRRは、畜産業のリスク要因としてアニマルウェルフェア、温室効果ガスの排出、水の枯渇、環境汚染など9つを挙げている。FAIRRは、欧州や米国などでアニマルウェルフェアに関する法制化が進み、消費者意識が高まるなか、「取り組まない企業は市場から取り残される」と指摘する。

### 鶏を「ケージフリー」に

ではアニマルウェルフェアにどう取り組めるのか。2つの代表的な事例を紹介したい。日本人は、鶏卵の消費量が世界で2番目に多く、一人当たり年間333個を消費している(国際鶏卵委員会、2017年)。日本では約1.3億羽の採卵鶏が飼育されているが、そのうち9割が「バッテリー」で飼育されている。バッテリーケージはすでにEUで禁止されていた金網に鶏を複数羽入れ、それを段状に重ねる。身動きの取れない狭いケージに1羽ずつ入れられる場合もある。卵が転がりやすいようにケージは傾斜させる。本来、捕食される危険のある鶏は、隠れて卵を産みたいという強い欲求を持つ。だが、ワイヤーで囲われただけで隠れ場所がないケージでの産卵は、強いストレスになる。さらに、羽をのばそうとし





バタリーケージで飼育されている採卵鶏。羽を広げることもしできない④ 平飼いの採卵鶏。羽や皮膚についた汚れや寄生虫を落とすために砂浴びする



**繁殖のために母豚を拘束**

て骨折したり、伸びた爪が金網に引っかかって足を骨折したりするなど、外傷が多い。採食のため地面をつつく習性があり、互いを傷付けないようにくちばしを切断する処置も行われる。

日本の養豚場の9割が導入する「妊娠豚用ストール」も問題視されている。

こうした残酷さや食の安全性から、ケージ飼育を禁止する法律が各国で制定されている(下表参照)。ネスレやスターバックス、イケアなど1700を超える企業がすでに「ケージフリー」宣言を行っている、平飼いや放牧された卵の調達を進めている。

繁殖用の母豚は、生後8カ月程度で初めての種付けが行われ、その後、別々の檻(ストール)に入れられる。このストールは方向転換すらできないほど狭く、首を曲げることもできない。ずっと同じ姿勢でいるため、足腰が弱り、褥瘡(床ずれ)もできやすい。筋肉量や骨密度も減少する。豚は本来、好奇心が旺盛で

群れで生活する。ところが、こうしたストールでは仲間とも生んだ子豚とも触れ合うことができない。そのストレスから、柵をかみ続けたり、何も食べていないのに口を動かしたりする異常行動が目立つ。うつ状態にもなってしまうという。

バタリーケージと同様、世界では「妊娠豚用ストール」が禁止され、群れ飼育が主流になりつつある。

認定NPO法人アニマルライツセンター(東京・渋谷)の岡田千尋代表理事は、「アニマルウェルフェアに配慮していると、病気になるにくい強い体になる。健康を自分で保つことができるので、薬物や農薬の使用量は減り、生育率も高まる。安全性の高い肉につながる」と強調する。

**4社が調達方針を策定**

オルタナ編集部では食品メーカー13社に対し、アニマルウェルフェアに関するアン

**畜産動物に関する法規制の比較**

規制内容	日本	ヨーロッパ	米国	その他
豚の妊娠ストール禁止	なし	EU スイス	10州	ニュージーランド(2015年末～) オーストラリア <sup>※1</sup> /イスラエル/カナダ <sup>※2</sup>
豚の麻酔なしでの去勢禁止	なし	EU(2018年～ <sup>※3</sup> ) スイス/ノルウェー	なし	カナダ(2016年7月～)
バタリーケージ禁止	なし	EU スイス	6州	ニュージーランド(2022年末～) ブータン/インド
鶏のくちばしの切断禁止	なし	オランダ/フィンランド/スウェーデン/オーストリア/デンマーク スイス/ノルウェー	なし	オーストラリア首都特別地域(オーストラリア)
絶食による強制換羽禁止	なし	EU スイス/ノルウェー	米国鶏卵生産者協会がガイドラインで禁止	インド <sup>※4</sup> オーストラリア/カナダ
フォアグラ生産禁止	なし	EU内で定着している地域以外禁止 スイス/ノルウェー	カリフォルニア州	サンパウロ(ブラジル)/アルゼンチン トルコ
フォアグラ輸入販売禁止	なし	なし	カリフォルニア州 ニューヨーク市	インド/サンパウロ(ブラジル)

※1 = 養豚業界が自主的廃止を決定し、2014年時点で65%が廃止 ※2 = 2014年以降に導入される施設は禁止 ※3 = イギリス、アイルランドではすでに禁止 ※4 = いくつかの州で、絶食による強制換羽を中止するよう、農家に指示  
出典: アニマルライツセンターの資料をもとに編集部作成

妊娠ストールに入れられた母豚。方向転換も振り返ることもできない



ケートを実施した(下表参照)。その結果、すでにアニマルウェルフェアに関する方針を持つ企業は、味の素、伊藤ハム、明治、雪印メグミルクの4社だった。キューピー、日清食品、丸大食品の3社は「検討している」、エスフーズ、ハウス食品は無回答だった。ケージフリーに関しては、味の素と日清食品が「検討している」。妊娠豚用ストール廃止に関しては、プリマハム

## アニマルウェルフェアに関する企業アンケート

企業名	方針	重要性	ケージフリー(卵)	妊娠豚用ストール廃止(豚肉)
味の素	ある	認識	検討中	検討中
伊藤ハム	ある	認識	いいえ	検討中
エスフーズ	無回答	無回答	無回答	無回答
キューピー	検討中	認識	いいえ	いいえ
ニチレイフーズ	ない	無回答	いいえ	いいえ
日清食品	検討中	認識	検討中	検討中
日本ハム	いいえ	認識	いいえ	いいえ
ハウス食品	無回答	無回答	無回答	無回答
プリマハム	ない	認識	取扱なし	取り組んでいる
丸大食品	検討中	認識	いいえ	検討中
明治	ある	認識	取扱なし	取扱なし
森永製菓	ない	認識	いいえ	取扱なし
雪印メグミルク	ある	認識	いいえ	いいえ

オルタナ編集部は事業規模の大きい食品メーカー13社にアンケートを実施。ほとんどの企業はアニマルウェルフェアの重要性を認識しているとした。卵と豚肉の取り扱いの有無は企業の自己申告に基づく

のみが「取り組んでいる」と回答し、味の素、伊藤ハム、日清食品、丸大食品は「検討している」とした。まだ日本で目立った動きは少ないが、国際社会の目は厳

しい。B B F A W(畜産動物福祉に関する企業のベンチマーク)は2019年2月、グローバル企業150社に対する評価を発表した。評価対象になったイオン、セブン&

アイ、日本ハム、明治ホールディングス、マルハニチロの5社は、いずれも最低ランクに格付けされた。

F A I R Rは2019年9月、投資リスクが高いと評価した企業一覧を発表。評価対象になったプリマハム(100点満点中15点)、日本水産(同11点)、日本ハム(同21点)は高リスク企業と判定された。

### チェックしたい6項目

では何から変えていけば良いのか。アニマルライツセンターは次の項目を最低限の必須項目として挙げている。

卵	ケージフリー
豚肉	ストールフリー
牛乳・乳製品	つなぎ飼育フリー
牛肉	群れ飼育のみにする
鶏肉	一羽あたりの飼育面積を規定する
と畜	スタンピング(気絶処理)なしの肉を使用しない

「食を支えるために畜産農家は一生懸命育てている。時代

のニーズに応えた結果、現在の畜産になった」

八雲牧場の小笠原さんの言葉は、食や食ビジネスのあり方を問いかけていようだ。

欧州をはじめ、世界ではアニマルウェルフェアに関する法制化が進み、代替手段も確立されてきた。商品のラベル表示も広がっている。

いずれこの流れは日本にも必ずやってくる。海外市場の変化やNGOからの働きかけによって、時間は掛かったが日本企業も次々に化粧品動物実験を廃止した。

そうであれば、早くから取り組んだ方が先行者利益を得て、「リスク」を「機会」に変えられる可能性が高まる。「SDGsウォッシュ」と言われないためにも、まずは実態を知り、ポリシーを持ち、公表していくことが企業に求められる。同時に消費者も企業努力を支持する、あるいは支持しないとといった明確な意志の表明が必要だ。

